

主 題：試練による成長**聖書箇所：ヤコブの手紙 1章1－4節**

今週は受難週ということで、私たちの罪を赦すためにイエス様が十字架に架かれたことを覚えて歩む1週間です。どうか皆さんが今クリスチャンとして歩んでいる、その恵みがここにあることをぜひ覚えて1週間を過ごしていただきたいと思います。

◎ 概要

きょうはヤコブの手紙から、私たちに及ぶ試練、苦しみ、困難をともに学んでいきたいと思えます。これには神様のすばらしい目的、またその先にはすばらしい結果があるということを知っていただきたいと思えます。

1. 共同書簡

このヤコブの手紙は一般に共同書簡と言われています。我々が書く普通の手紙は書き手があって宛先人がある。しかし、共同書簡というのは書き手はいますが、多くの教会に宛てた手紙であると言われています。ヤコブの手紙以外にも幾つかの手紙がありますが、この手紙は当時多くの教会で読まれました。

2. 筆者

ヤコブの手紙と書かれてあるように、書き手は主の兄弟ヤコブであろうと言われています。ヤコブはイエス様がこの地上におられる時はイエス様を信じていませんでした。彼は復活された主にお会いしてイエス様を救い主として信じました。彼は当時のエルサレムの教会の指導者として大きな働きをしたと言われています。また彼については使徒の働き21：18以後には全く言及されていません。恐らく彼は紀元62年ごろに石打ちの刑で殉教したであろうと言われています。その時ヤコブは、「父よ、彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか自分でわからないのです。」ということばを残して殉教したと言われています。このことばを聞くと、私たちはある方を思い出します。それはあの十字架上でこのことばを発したイエス様です。ヤコブは最期にイエス様と同じように語ったと言われています。

また、彼は大変な祈りの人で、何時間も祈り続けたために彼の膝はラクダの膝のように硬くて真っ平らになっていたと言われています。そのヤコブが書いた手紙です。

3. 執筆事情

- (1) 試練にあるキリスト者を励ますため
- (2) 信仰には行いが伴うことを教えるため
- (3) 語ることばの重要性を教えるため
- (4) 世俗的な生活をしているキリスト者を戒めるため

この手紙は信仰生活における実践的な面を強調して書かれています。違うことばで言うと、彼はこの手紙で行いの大切さを記しています。比べてみると、13あるパウロの書いた手紙は教理的な面を強調していると言われますが、ヤコブの手紙は実際に私たちが信仰生活をどのように歩んで行けばいいのかを教えている手紙です。

☆ 試練による成長

きょうは皆さんとヤコブ1：1－4を通して“試練による成長”ということで学んでいきたいと思えます。

ヤコブ1：1－4

- :1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。
- :2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。
- :3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。
- :4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。

A. あいさつ 1節

ヤコブは1節であいさつを書き記しています。

1. 「しもべ」

ここで「しもべ」と訳されていることばが出てきますが、ギリシャ語では「ドゥーロス」ということばが使われています。これは「奴隷」という意味を持ったことばです。皆さんご存じのように、奴隷と

というのは自分の権利を全く持たない、主人に依存する、全き服従の者たちのことです。だから「しもべ」と奴隷とは多少違います。「しもべ」は他者に労働を提供する者、しかし、奴隷は主人の完全な所有物です。だから彼に自由は100%ありません。みことばは、救われた者、クリスチャンたちを神の奴隷だと書き記しています。パウロは1コリント6：20で「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」と述べています。イエス・キリストの十字架という犠牲によって神に買い取られたものだと教えます。またローマ6：22では「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、」、私たちは救われる以前は罪の奴隷でした。しかし、今は神の奴隷となったのだと教えます。

2. 「神のしもべ」

1節で「神と主イエス・キリストのしもべ」と記されています。これは「神のしもべ、主イエス・キリストのしもべ」ということです。この「神のしもべ」というのは、当時ユダヤ教では特別に仕えた預言者、あるいは族長たちを意味することばでした。彼らは宗教的に大変敬虔な者たちであって、人々に仕えて、人々を指導するという役割を自覚している者たちでした。

3. 「主イエス・キリストのしもべ」

そして、「主イエス・キリストのしもべ」と続いています。先ほども申しましたが、ヤコブは主の兄弟です。だから彼はここで神のしもべ主キリストの兄弟ヤコブと書くこともできたのですが、彼は「主イエス・キリストのしもべ」と記しています。これは主イエスこそ自分の救い主であるというヤコブの強い信仰の告白であると見ることができます。

ヤコブは復活された主にお会いして救われました。この「神と主イエス・キリストのしもべヤコブ」、それは私、ヤコブは神の奴隷であって、主イエス・キリストが私の救い主ですと言うのです。ヤコブにはそれ以外の修飾は一切ついていないのです。ということは、このヤコブという人物はこの当時多くの人たちによく知られていた人物だったと知ることができます。パウロはガラテヤ1：19でヤコブのことを「使徒」と呼んでいます。

4. 「国外に散っている」

また、ヤコブは「国外に散っている十二の部族へあいさつを送ります。」と言っています。この当時のローマ世界に散っていたクリスチャンに対して、ヤコブはこの手紙を書いたのです。人々がエルサレムから散っていった理由があるのです。それは使徒8：1では「迫害が起こり」、また8：4では「散らされた人たちは、みことばを宣べながら、巡り歩いた。」とあります。11：19では「ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んでいった」と。彼らはいろいろな迫害や困難を身に受けて散っていった。そのようなクリスチャンに向けてヤコブはこの手紙を書き送ったのです。先ほどの執筆事情の(1)に、この手紙は試練の中にいるキリスト者を励ますために書かれた、それが一つの目的だと記しておきましたが、ヤコブはそういう迫害の中にいる、試練の中にいるクリスチャンをまずは励ましたかった。まずは力づけたかったのです。

B. 試練を受ける時 2節

そういう思いで最初のあいさつに次いで2-4節で「試練」について書き記します。「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」、この「試練」ということばは、2節と12節で「試練」と訳されていますが、13、14節では「誘惑」と訳されています。同じことばが日本語では「試練」、「誘惑」と訳されています。「試練」と「誘惑」が違うものであることは皆さんよくご存じだと思います。「試練」は私たちの信仰を強めるために神が用いる方法です。神が用いる方法は「試練」です。しかし、「誘惑」は私たちを罪に陥れるためにサタンが用いる方法です。ペテロは1ペテロ1：7で「信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、」と述べています。それはクリスチャンにとって「試練」は純金よりも非常に価値のあるものだとペテロは言います。「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい」、この「会うとき」というのは、与えられた時という意味です。この「さまざまな試練」というのは肉体的なこと、精神的な苦痛、あるいは社会的な迫害、あるいは経済的な困難、そういうことすべてを含んでいます。パウロは使徒14：22で「私たちが神の国にはいるには、多くの苦しみを経なければならない」と記しています。私たちが天に入るには、この地上で多くの苦しみがあるのだとパウロが教えています。実際にパウロはこの地上で私たち以上に大きな試練、大きな苦しみ、大きな迫害、大きな困難に遭いました。2コリント11：23-27を見ればそのことが記されています。

しかし、パウロはこのような試練の中にあっても、喜びを失いませんでした。そして彼はあるところに手紙を書きました。それがピリピ人への手紙です。一般に喜びの手紙と言われていますけれども、パウロはどんな試練の中にあっても、どんな困難の中にあっても、その喜びを見失うことはなかった。そ

のことをピリピのクリスチャンたちに書き送りました。「さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい」、「喜びと思いなさい」、それは喜んで受け取りなさいという意味です。そしてなぜ喜んで受け取れるのかということはこの後3-4節でヤコブが私たちに教えてくれています。それはキリスト者の信仰を強めて成長させる神の恵みであるからだと言います。

「この上もない喜びと思いなさい」、最高の喜びと思って受け取りなさいということです。試練、苦しみ、困難、私たちはなければいいと思うかもしれませんが。人間的に思うと、全く好ましくない、必要でない。そのような状況の時に最高の喜びをもって、この試練を、苦しみを、困難を受け取りなさいとヤコブは言うのです。詩篇の作者も119:71で「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」、あなたを深く知ることができたと教えています。

1. 自分の子どもに対する愛のむち

ヘブルの著者は12:5-7で——これは箴言3:11-12を引用しているのですが——私たちに与えられる試練は神が私たちを子どもとして扱っているから、そういう試練を与えるのだと記しています。神はキリスト者を自分の子どもとして扱い、愛のむちである試練を与えられる。だからこの試練は神の怒りではなく、神の愛であるとヘブルの著者は教えます。自分の子どもとして試練を与える神は、そのまま子どもを放ったらかしておく神ではありません。

2. 試練にあるキリスト者に対する励ましと約束

だから試練にあるキリスト者に対する励まし、あるいは約束もみことばの中に記されています。ヨハネ16:33でイエス様はこう言われました。「あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」、こうしてイエス様は私たちに艱難があること、でもそれに勝利できることを教えられました。

パウロは1コリント10:13でこう述べています。「あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。」、パウロはここで私たちに何を教えようとしたのか——。「待っていれば脱出の道が与えられる」ではなくて、困難な時にあっても、この困難を乗り越えていく力を神が与えてくださるということ、パウロはここで教えています。なぜなら真実な神は良いことしかなさらないからです。私たちに最善しかなさらないからです。だから試練を与えるとともに、私たちがその試練を乗り越えていく、その力をも与えてくださるのだと、パウロは言うのです。

また、この試練は、神のみこころによって私たちに与えられるものです。そのことをペテロが1ペテロ4:12-13で「愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。」と言います。ペテロはここでこの試練、困難の背後でクリスチャンたちを信仰的に強く成長させようとしている神の善なる計画をはっきりと見るようにと言うのです。この試練、この困難は神のみこころによって与えられるものだと言います。

しかし考えてみてください。世の人々はこの苦しみ、困難、試練をどのようにとらえているか——。彼らはそのようなものが自分の身に起こってほしくない。なぜならそのような困難、苦しみ、試練は自分を困らせるし、自分を弱らせるし、また自分を不幸のどん底へ落としてしまうからです。だから彼らは苦しみが襲った時に、なぜ？ どうして？ という疑問を持ちながらこの苦しみに遭っていく。確かに私たちも身に及んだ苦しみ、試練、困難には、どうしてなんですか？ なぜ今なのですか？ と思います。でも私たちにとって大切なのは、世の人と違うものを私たちは持っているということです。それは聖書、神のみことばです。私たちがそのような状況になった時にここに返らなければいけません。世の人々はここに返ることができないのです。だから彼らは解決の道を知らない。ここに返ることが正しいことであると私たちは知っているのです。世の人々はそういう思いを継続して持ち続けます。私たちも考えなければいけないのは、このような苦しみに遭った時、困難に遭った時、なぜ、どうして、なぜ私にという思いを持ち続けてはいけないということです。持ち続ける時に私たちのうちに何が起きるのか——。サタンはその思いを見事に利用します。そして私たちのうちに不信感を植え付けるのです。この不信感是不信仰へと大きくなっていきます。だから私たちがそのような思いになった時に、この聖書、神のみことばに立ち返って、そこから知恵をいただく必要があります。

また、困難や迫害は自称クリスチャンの姿を鮮明にします。マタイ13:20-21に皆さんよくご存じの種まきのたとえの話が記されています。「また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのた

めに困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。」、私は救われていると思い込んでいる人に困難や苦しみや迫害が及ぶと彼らはそれによって、信仰から離れていくとみことばは教えています。だから苦しみ、迫害、試練は救われている者と救われていない者をテストする神の方法であるかもしれません。

C. 試練の目的 3節

しかし、本当に救われた者、真のクリスチャンはヤコブも言うようにこの試練を喜んで受けます、また喜んで受けるようにとみことばは教えています。なぜならこの後ヤコブは3-4節でその理由を明らかにしています。3節「信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。」、「信仰がためされると」、信仰が練られていく過程です。「忍耐が生じる」、試練が与えられる、信仰が練られていくということです。

「忍耐が生じる」の「忍耐」ということばは、ただ単にじっと我慢してという消極的なことばではありません。もっと積極的に、もっと能動的に乗り越えていく、チャレンジしていく力のことです。この「忍耐」ということばをどのようにして皆さんに理解していただくかと、いろいろな辞書を調べましたが、ロイドジョンス先生が書かれている本の中に「忍耐とは辛抱強く進み続ける力」と書かれていました。これだ、「忍耐」とはこういう力だと皆さんにお伝えしようと思いました。

そして、「生じるということを、あなたがたは知っているからです。」の「知っているからです」ということばは、単に頭で知っているというのではなくて、経験を通して、実際の生活を通して知っているということです。それは違うことばで言うと「確信しているでしょう?」、「確信していますね」という意味を持っています。

4節「その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」、ヤコブはこう教えていますが、パウロがこのことを非常に端的に、非常にわかりやすく教えている箇所があります。それはローマ5:3-4です。ここでパウロは「そればかりではなく、患難さえも喜んでます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」と言います。パウロもヤコブが使ったのと同じように「知っているからです」と言っています。「確信しています」、「確信しているでしょう」という意味のことばです。ここで大切なことは、「患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す」の「生み出す」ということばです。それは、違うことばで言うと、「作り出す」、「練り上げていく」という意味を持っています。だからパウロは「患難」は私たちのうちに「忍耐」を作り出し、「忍耐」は私たちのうちに「練られた品性」を作り出す、そしてその「練られた品性」は私たちのうちに「希望」を作り出していくのだとここで教えます。

D. 試練の結果 4節

また、ヤコブ書でヤコブはそのことを「その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」と言います。「完全に」というのは十分という意味です。「働かせなさい」という動詞は「作用させなさい」、「用いなさい」、「使いなさい」という意味を持っていますが、試練によって強められた、あるいは作り出された「忍耐」を十分に用いなさいということです。そして、「そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」と。完全な者となるでしょうではなくて「完全な者となります」とヤコブは言います。それは霊的に成長した者たちです。そしてこの「完全な者となります」というのは罪のない完全を言うものではありません。それは救われた者、クリスチャンの品性、あるいは信仰生活における行い、そういう意味の完全性を強調していることばです。そしてその前に「何一つ欠けたところのない」という修飾がついています。「何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります」というのは、私たち救われた者たちがあらゆる部分で成熟し、バランスの取れた霊的な大人になるという意味です。

1. 試練による成長

先ほど見たローマ5:4でパウロは「練られた品性を生み出」しとしました。これは精錬されてどんどん純度が増していく様子を表していることばです。私たちから不必要なものがどんどん落とされ、イエス・キリストに似た者に変えられていく。それが練られた品性を生み出すという意味です。ヤコブは試練は忍耐を生み出し、そしてその忍耐を働かせたら私たちは「完全な者」となると教えています。

2. その先には

その「完全な者」となった者たち、その先はパウロは2コリント1:4で「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのよ

うな苦しみの中にいる人をも慰めることができます。」と言っています。私たちが今受けている苦しみ、困難、迫害、試練はただ単に私たちが経験するだけで終わらないということです。私たちの後ろから続いて来る者たちがそのような状況になった時に、私たちはその者たちを励ますことができる、私が経験した苦しみによってその者たちを慰めることができる。そのために私たちの今の試練、苦しみ、困難があるのだとみことばは教えます。

そして先ほどのローマ5：4では「練られた品性が希望を生み出す」とパウロが言います。それはなぜかと言うと、霊的に成長したクリスチャン、キリスト者は神がどのようなお方であることを深く知ることによって、ますます主に信頼する者となります。そのことはクリスチャンに確信的な希望を与えるのです。神は真実な方で、最善しかなさらない方だからです。その方が私たちに約束しているのは、良き希望であるということを私たちは知っているからです。

またヤコブは1：12で「試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。」と記しています。私たちに与えられる「試練」は、私たちのうちに「忍耐」を生み出し、その「忍耐」は私たちのうちで「練られた品性」を生み出していく。その「練られた品性」は私たちに揺るぎのない「希望」を与えてくれると、ヤコブもパウロもそのように教えます。私たちはこの「試練」によって成長することができるということです。まさに与えられているこの「試練」、苦しみ、困難は私たちをますます主に近づける神様の恵みであると私たちは知ることができます。

教会の女性の皆さんはウォーレン・ワーズビーの「試練による勝利」という本を使って学ばれたことがあるのではないかと思います。その中の1節をお読みします。「もし私たちが神にゆだね、神により頼んで、神が私たちにするように告げておられることに従うなら、神は人生の試練の中でご計画を達成して行かれます。困難は私たちの信仰を増し加え、祈りの生活を強めてくれるのです。また私たちが他のキリスト者にいっそう近づけ、重荷を負い合うようにさせてくれます。困難はことに、神の栄光を現すためにも用いられます。それで、試練の中にある時、神があなたにとって何であるか、また、神があなたのために何をしてくださるかを思い起こしてください。」と書いています。「試練の中にある時、神があなたにとって何であるか、また、神があなたのために何をしてくださるかを思い起こしてください。」、これはクリスチャンの特権です。世の人々にこのことばは通用しません。私たちの特権です。だから私たちは私たちの今実際にある苦しみ、困難、「試練」にちゃんとした神のみこころがあることをしっかりと覚えて、その「試練」、苦しみに勝利する力を得て前に進むべきです。私たちはそのような試練を乗り越えることが確実にできるとみことばは教えています。